

序

東日本大震災から7年が経過した平成30年度は、未だ多くの子どもたちが避難先の学校で学習活動を続けるなど、震災に起因する課題が山積している一方で、着実に復興への歩みを進めた年でもありました。

まず、避難指示解除等に伴い、一昨年の南相馬市小高区、楡葉町に続き、飯館村、川俣町山木屋地区、富岡町、浪江町、葛尾村の5つの町村において、地元での小中学校再開を果たしました。

また、県立高等学校全体の教育の質的向上と、魅力と活力ある学校づくりを進めるため、5月に「県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」、平成31年2月に「県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）」を策定しました。

さらに、地域と学校が強固なパートナーシップを構築し、新学習指導要領のポイントとなる社会に開かれた教育課程を実施しながら、地域づくりと一体となった社会総がかりによる教育の実現を目指すため、平成31年2月に「地域学校活性化構想」を策定した年でした。

このような中、県教育委員会では、「第6次福島県総合教育計画（改定版）」の後半4年間に当たる平成29年度～令和2年度の取組を加速させるため、平成29年3月に策定した「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策を推進しました。

さて、本教育年報は、平成30年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後も本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

令和元年10月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。
また、敬称は省略しています。